

ワークショップ進行シート

作成日： 2018年 8月 11日

タイトル：サイレントマジョリティー～その考えは誰の？～

ファシリテーター（グループ）： _____

1：本ワークショップの要旨

本ワークショップでは身近にある偏見、差別の例を取り上げ、私たちが無意識のうちにしている偏見、差別について気づいてもらう。また、差別や偏見はたびたび多数派と少数派の関係にあるため、児童・生徒たちが実際にその状況に陥ったときにどう行動すればよいのかを考えていく。私たちファシリテーターは児童・生徒たちが自身にも関係のあることだと捉えてもらえるよう活動する。個性を偏見や差別とつなげてしまうこともあるということに生徒自ら気づき、どう行動したらよいのかをグループで考える場を設ける。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

本ワークショップを通して、普段何気なく考えていることや口にしていることが差別や偏見に繋がっているということを生徒に理解してもらう。また、先入観だけで相手や相手の国のイメージを決めるつけるのは良くないということを生徒一人ひとりが考えられるようにする。

3：本トピックをとりあげる理由

現在、私たちは多様な文化を持つ人々と関わる機会が増えてきている。しかし異文化と出会った際、私たちは時に無意識に差別や偏見を持つことがある。差別や偏見は人を傷つける原因の元となる。無意識下で行われている差別や偏見について考えてもらうため本ワークショップでこのトピックを取り上げた。

4：活動過程 (使用時間：90分(休憩10分を含む) 参加人数： 60名)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動き など	ねらい	使用する教材 ・備品	予想される反応、その他、 注意事項

<p>導入 :起 (10分)</p>	<p>ジェスチャーで伝言ゲーム</p>	<p>班ごとに縦一列になり、先頭の子から順に、ジェスチャーでお題を伝えていく。最後の人がお題を当てることができたら成功。 (お題は国や人に関するものにする)</p>	<p>大学生と参加者間の緊張をほぐす。また、与えられたお題について自分が偏った考え方を持っていないか</p>	<p>なし</p>	<p>言葉を用いずに物事を伝えることの難しさ。与えられたお題に対してステレオタイプを持っていることに気づく。 *注意事項* 言葉を発してはいけない (口パクも不可)</p>
<p>展開 :承 (30分)</p>	<p>仲間はずれは誰ゲーム</p> <p>個人活動①</p> <p>ディスカッション</p> <p>個人活動②</p>	<p>一枚のイラストの中の複数の登場人物から、自分が考える仲間はずれのものに○をつける。</p> <p>○○の人は○○だ、やオタクをどう思うか、などを取り上げ、ワークシートに自身の考えを記入してもらおう。</p> <p>生徒児童たちが中グループを作り、個人活動①で書いた意見について共有し、話し合う。</p> <p>ディスカッションを通じて、自分自身がどう感じたか意見をまとめる。(前と意見が変わったか)</p>	<p>参加者に知らず知らずのうちに行ってる差別に気づいてもらう。差別を身近に感じさせる。</p> <p>背景についての知識があまりない状態での自分の考えを知る。</p> <p>様々な意見を知る。</p>	<p>イラストカード、プロジェクター、筆記用具</p> <p>ワークシート、筆記用具</p> <p>ワークシート、筆記用具</p> <p>ワークシート、筆記用具</p>	<p>自身が知らないうちに差別や偏見を抱いていることに気づいてもらう。 *注意事項* 必ずしも丸をつけなければならないわけではない。</p> <p>オタクという言葉にマイナスな印象を持つ生徒・児童がいる。少数がプラスな印象を持つ。</p> <p>意見は変わらなくても良い。</p>

<u>発展：転</u> <u>(15分)</u>	まとめ①	個人活動①での見方は偏った見方ではないか、差別してはいないか、どうして見方が偏ってしまうのか、等を伝える。	差別をしていないか考えるきっかけを与える。	プロジェクター	生徒・児童の見方が偏っていると決めつけない。

<p>まとめ : 結 (15分)</p>	<p>成果物の 作成</p> <p>まとめ②</p>	<p>ファシリテーターのWSを 通して、何を学んだか、こ れからどのように行動して いきたいか、をワークシ ートに記入してもらう。 時間があれば全体で共有す る。</p> <p>ワークショップを通して、 ファシリテーターが伝えたい ことをスライド上で示 す。ファシリテーターがタ イトルにも使われているサイ レントマジョリティーにつ いて説明する。WS全体 のまとめをする。</p>	<p>他の人の意見に 目を向けること で、今回のWS の理解をさらに 深めてもらう。</p> <p>ワークショップ を通して、身近 に起こる差別に は賛成派と反対 派が存在する が、その事実を 受け入れる、理 解することが必 要だということ を伝える。</p>	<p>ワークシート、 筆記用具</p> <p>プロジェクター</p>	
---------------------------	--------------------------------	---	--	--	--

5 : 会場のセッティング

6 : 使用する教材
スクリーン、プロジェクター

7 : 参考にした資料

8 : その他